

## 第 45 回奈良市文化振興計画推進委員会 会議録

開催日時	令和 8 年 2 月 20 日（金） 午前 9 時半～11 時半	
開催場所	奈良市役所中央棟 101 会議室	
議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 会長挨拶</li> <li>3. 議事             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 令和 7 年度事業視察について</li> </ol> </li> <li>4. 報告事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 令和 7 年度主な事業の実施状況について</li> <li>(2) 奈良市文化振興補助金について</li> <li>(3) 第 2 次奈良市文化振興計画の中間評価・改訂について</li> <li>(4) 文化施設アンケート結果について</li> </ol> </li> <li>5 その他</li> </ol>	
出席者	委員	山下会長、藤野副会長、安藤委員、上田委員、風間委員、島委員、関根委員、中島委員 【計 8 人出席】
	事務局	(文化振興課) 森課長、荒益課長補佐、吉川課長補佐、藤井振興係長、仲川、山田
開催形態	公開（傍聴人 2 人）	
決定事項	今回の会議録の署名は、山下会長と安藤委員が行う。	
担当課	市民部 文化振興課	

### 議事の内容

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 議事
  - (1) 令和 7 年度事業視察について
 

資料 2 を用いて、令和 7 年度事業視察について説明。

〈各視察委員からの評価〉

○奈良市美術館活性化事業 Vol.9 「あそぼ！ミュージアム」pook 展『てのひら散策』について

    - ・体験型展示であり、親子連れの来館が多く見られ、新しい取組として評価できる。
    - ・商業施設内という立地を踏まえると、より親しみやすい名称や広報の工夫があればよいのではないか。

○第 1 回 なら華郵賞 受賞作品展について

    - ・作品の質も高く、公募展としての意義は大きい。
    - ・施設が奥まった立地にあり、入口で立ち止まる来訪者が入館に至らない様子も見受けられた。
    - ・エントランスや導線において、現在の展示内容がより分かりやすく伝わる工夫があればよいのではないか。

○奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良 2025-2026」グリーン・マウンテン・カレッジについて

- ・たき火を囲む対話形式は、参加者同士の学び合いを生む有意義な場となっている。
- ・奈良の風景の一部として魅力的であると感じた。
- ・経済的成果につなげるためには、奈良市外への広報戦略や観光客への対応についても、早めに検討していくことが効果的と思われる。

○奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良 2025-2026」古都祝奈良の学校について

- ・伴走型の人材育成事業として評価できる。
- ・事業後の参加者の活動状況や成果について、フィードバックを得る視点もあるとよいのではないかな。

○奈良市立小学校での弦楽器体験事業について

- ・新規事業としての意義は大きい。
- ・鑑賞にとどまらず、全員が実際に楽器に触れる機会を設けた点は特に評価できる。
- ・事業運営にあたっては、市職員が司会進行を担い、専門性を発揮していた点が評価できる。継続的な実施を見据えると、専門人材への委託等も含めた体制について検討していくことも一つではないかな。

○文化施設（入江泰吉記念奈良市写真美術館、音声館、ならまちセンター、なら 100 年会館）視察について

- ・視察を通じ、奈良市には多様な文化施設があることを改めて実感した。各施設とも建物の魅力や立地特性を活かした価値を有している一方で、学芸員等の専門職を含めた人員不足が共通課題として見受けられた。専門性の高い人材の確保・配置は重要である。
- ・写真美術館については、建築的価値が高く、周辺環境と調和した魅力ある施設であるが、常勤の学芸員が少人数体制であり、企画運営やアーカイブ機能の維持には限界が懸念される。大学との連携企画は教育的意義も高く、今後も継続的な取組が期待される。
- ・奈良市音声館については、歴史的町並みに立地し建物自体の魅力も高いが、指定管理料が限られ人員体制も厳しい状況にある。諸室や防音設備など豊かな資源を十分に活用するためには、コーディネーター的役割を担う専門人材の配置が重要である。また、文化的手法を活用した地域連携や社会的課題解決の拠点としての可能性も期待される。
- ・ならまちセンターについては、リニューアルによりワークショップのスペース等が整備され、アートセンターとしての機能が充実している。公共施設として人が集い交流する場となっており、観光客や外国人来訪者も含めた活用の可能性がある。
- ・なら 100 年会館については、建築的独創性が高い一方で、動線やバリアフリー面での課題、空調負荷等の設備面の課題が見受けられた。自主事業予算が建物規模に比して少ない印象もあり、運営体制や事業展開のあり方について検討してもよいのではないだろうか。

#### 4. 報告事項

(1) 令和 7 年度主な事業の実施状況について

資料 3 を用いて、令和 7 年度主な事業の実施状況について説明。

〈委員からの意見〉

- ・SNS の活用が近年進んでおり、インスタグラム等を通じて奈良市の文化事業の情報が届いており、評価できる。効果検証は今後の課題であるが、引き続き取り組んでほしい。

## (2) 奈良市文化振興補助金について

資料4を用いて、奈良市文化振興補助金について説明。

### 〈委員からの意見〉

- ・交付予定額はどのように算定されるのか。  
→申請額および審査順位に基づき、一定の配分率を乗じて決定している。
- ・年度によって交付総額に差が生じるのはなぜか。  
→国際発信型事業の有無により総額に変動がある。
- ・応募件数が増加していることは評価できる。

## (3) 第2次奈良市文化振興計画の中間評価・改訂について

資料5を用いて、第2次奈良市文化振興計画の中間評価・改訂について説明。

## (4) 文化施設アンケート結果について

文化施設アンケート結果について説明。前回の委員会での意見を踏まえ、所管する文化施設10施設に対してアンケートを実施した。調査項目は、困りごと・課題の有無、研修や会議への参加状況、市民との関わりの有無等。

主な回答内容としては、施設設備の老朽化に関する課題が多く挙げられ、そのほか運営体制や利用者対応に関する課題も見受けられた。

研修や会議に参加している施設も見られ、全国公立文化施設協議会・奈良県公立文化施設協会以外での連携として、市内の大学や県外施設（千葉県、徳島県等）との情報交換の実績についても確認された。

### 〈委員からの意見〉

・施設の経年劣化が著しいとのことであり、対症療法ではなく大規模改修を計画的に検討してもよいのではないだろうか。また、博物館法改正への対応も含め、今後の方針を整理することも一つではないか。なお、有名建築であることから設計事務所が現存しており、改修にあたっては調整の難しさや部品調達の課題も想定される。そのような事情も踏まえ、計画的に検討してもよいかと思われる。

→来年度予算で部分的な修繕費は計上している。大規模改修となると費用が高額になることが想定されるため慎重な検討が必要であるが、課題として認識している。

・奈良市音声館について、今年度より体制が変わったが、今後大きく変わりそうな点はあるか。  
→少人数体制による運営は厳しい状況にあるが、観光分野にも寄与する取組として、施設周辺のウォーキングツアーのモニター事業を実施しているところである。成果が得られれば、今後の事業展開にもつなげていきたいと考えている。

・貸館利用の基準について、基本的な考え方を伺いたい。夜間利用がある場合の職員体制はどのように対応しているのか。

→条例上、多くの施設は午前9時から午後5時までを基本開館時間としているが、利用申込みがあれば夜間も開館する仕組みとなっている。そのため、夜間利用がある場合には、必要な職員体制を確保したうえで対応することとなる。

・視察委員からの意見も踏まえ、愛称の設定など、親しみやすい名称のあり方について伺いたい。  
→通称名の設定については、大きな手続を要するものではないが、正式名称の変更については、条例改正が必要となる。

以上、議題終了